

2002年4月発行
 発行人：芦原 直哉
 発行所：神戸市中央区海岸通 8
 神港ビルヂング 5階 509
 T E L : 078-393-0050
 F A X : 078-393-0051
 E-Mail : kobekeio@dream.ocn.ne.jp
 U R L : <http://www.kobekeio.org/>
 編集：八巻 晤郎・堀 友子

～ 3 月度例会報告 ～

加藤卓人（昭和 61・政）

3月28日、「関西医療の中でのリハビリテーション医学」と題して、兵庫医大リハビリテーション部：道免和久さん（61 医学部卒）において頂き講演していただきました。



講師の道免会員

たとえば、脳卒中で倒れた場合、できるだけ早い時期（1～5 ヶ月以内）に集中して専門医でリハビリすることが大切ですが、関西では専門のリハビリ病院が少ないため、なかなか入院できず、6 ヶ月を過ぎた頃にリハビリを始めることも多いそうです。

結果として、回復がむずかしくなるケースや、回復が長期化し、入退院をくり返すケースが関東に比べて突出しているようです。そもそも、関西地区では、本格的なリハビリ科のある大学

が関東と比べると少ないため専門医が養成できずそれが専門病院の不足する一因のようです。現在、小泉首相の「聖域なき構造改革」の中で医療改革も検討されていますが、身近なテーマでもあり、大変勉強になりました。



懇親会は、中神先輩のご好意がテーブルを埋めた東天閣ご自慢の春の中華宴を満喫しながらの歓談。当日参会者も多く60余名に膨れ上がり、急遽テーブルを追加してもらった盛況でした。「若き血」はウッチ - こと内山会員が風邪で声帯損傷のため、野田敬二会員が音頭をとり、春の宴を締め散会しました。

慶雲應輝

現在、全世界に八七一の三田会が登録されている。そしてこの三田会が慶應の強さの秘訣である。今回はそのルーツを探ってみよう。

福澤先生は塾生への教育はもちろんだが義塾を築立った若者が社会の中でどのように成長していくか常に強い関心を抱いていた。そして書物からではなく人と語り合ううちに互いに知識を交換しあうことができる社会教育の場を設けることを考えつづけた。まず、明治九年三田山上に、社中に開かれた「萬來舎」を設置。明治十三年には社中以外にも発展させた「交詢社」を銀座に設立した。

最初の同窓会は明治一二年湯島昌平館で行われ約三〇〇名が参加した。その後各地で開催され福澤先生は進んで参加されたとのこと。今でも塾長が三田会に進んで参加される伝統のルーツである。

明治三四年先生没後、大黒柱を失った社中が連帯感を深める為に福澤別邸で行われた同窓会で「慶應義塾同窓会規約」を制定、以後年二回開催されるようになった。

同窓会とは別に塾員有志により自発的に結成されたのが三田会である。翌年（一九〇二年）東京地区の有志が交詢社に集まり結成したのが最初であり、その後各地で結成された。（以上「塾」二三三号より）つまり、今年三田会創設百周年である。

筆者は神戸慶應倶楽部で、いかに多くのことを先輩や後輩から学ぶことができたか計り知れない。

福澤先生とその意思を受け継いできた先輩諸氏に唯々感謝あるのみ。

（瑞應）

～ 4 月度例会のご案内～

第一部 講演会

日時：4月24日(水) 18:30～19:15

場所：倶楽部ルーム

講師：大阪音楽大学理事長学長 **西岡信雄氏**

昭和38年商学部卒

父上は人文地理の西岡教授です。

楽しいお話が聴けると思います。

第二部 懇親会

時間：19:30～21:30

場所：旧居留地十五番館

会費：5千円

～ 幹事会報告～

3月6日(水)倶楽部ルームにおいて2001年度第五回幹事会を開催致しました。議題は下記の通りで、5月の総会の議案について審議致しました。

活動報告では倶楽部ルームの移転等により赤字体質からの脱却ができた旨の報告等があり、来年度の活動計画では例会等の会費を少しでも安く、併せて開催曜日等の考慮によりより多くの会員が参加できる体制づくりを検討致しました。

来年度の幹事については、幅広い卒年から実際の活動をしていただける方を中心として推薦することと致しました。具体的には4月18日の次回幹事会・評議員会までに施策を纏めて諮ることとしました。

第一号議案 2001年度活動報告の件

第二号議案 2002年度組織体制の件

第三号議案 2002年度活動計画の件

会員だより

「世界を動かす日本の薬」 - 築地書館 -

岡本彰祐(昭16・医) 編著

岡本会員からの投稿に基づき、『慶應義塾医学部新聞』(2002年2月20日)に掲載された書評を抜粋しながら上掲書を紹介します。

本書の第一部で岡本氏は次のように主張する。

「研究には独自の高い目標を意識した方法論が基本的に重要である。とくにテーマの選択は「流行の波」にひきずられないように警戒する必要がある。

「流行」とは何か。長く停滞していた分野に突然ブーム的に研究者の集中が見られる。そのテーマを扱う会場に人があふれる。討論が白熱化する。これを「研究の流行」と呼ぶ。

しかし、この「流行的研究」は、科学的所有権(いわゆる国際特許)からみると、追試研究の日本の研究では科学的所有権を主張しにくく、有効な特許を得ることはほとんど不可能である。

日本の学者の為すべきことは、流行を追うのではなく、自ら流行を創ることにある。福澤諭吉は、「旧きを創る」という方向性こそ見直すべきであるという。そこにこそ大学や会社の運命を左右する問題がある。」

書評で、五島雄一郎東海大名誉教授(昭21・医)が「1947年以来、止血・血栓薬開発の先頭に立ち、岡本先生を中心として産学協同で、国際水準を抜くこと、流行の研究を避けること、医学に役立つ薬を見つけること、という三点を中心に研究が進められた経過が記述されている。第一部で構成され50年余の研究で三種の新薬を世界に送り出したその記録であり輝かしい結果の記録である。」と評されているがまさに「慶應医学」ここにあり、と感ぜさせられる書である。

3月例会で道免会員が講演の中で述べられた「慶應医学」が内包する「社会福祉に貢献する、真摯な医学」の一面が読みとれる本ではないでしょうか。(八巻 記)

「世界を動かす日本の薬」は倶楽部ルームにありますので随時お読み下さい。



ワンダーランドのツアー

櫻根みづえ (昭41・政)

2週間前に関西婦人三田会の仲間4人でタイ旅行に行ってきた。ツアーは私達4人だけで、まるで運転手とガイド付きの個人旅行と云った贅沢気分を味わえた。

チェンマイとバンコクと各2日ずつ連泊したが雰囲気まるで違う。元々は、別々の王朝が20世紀初頭に統一されると聞けば合点がいく。バンコクは、近代的な高層ビルと王宮や壮麗な王室の守護寺院が共存し、まさに首都にふさわしい賑わいに満ちていた。チェンマイはバンコクに次ぐ都市ではあるが、濠と城壁に囲まれた旧市内、そこから続く新市内、幾多の遺跡、郊外の大自然等々、かつての王朝の首都の面影の残る落ち着いた街であった。

この二都市だけでなく、スコタイ、アユタヤも訪ねた。かつての栄華を極めた両王朝を偲ばせる煌めく寺院、朽ちた仏像、数多くの遺跡等を見ていると、言うに言われぬ感動を覚えた。ライトアップのアユタヤ遺跡、タイ料理、象の騎乗、伝統工芸、ナイトバザール、人々の優しい微笑みと表情等々思い出はつきない。

現代といにしえが混在するこの国を又、ぜひ訪れてみたい。

倶楽部ルームに新型パソコンを設置

パソコンのハードに強い市川会員の奮闘により新しいパソコンが倶楽部ルームに設置されました。スペックは、CPU:アスロン 1700+、メモリー:256MB、HDD:40GB、CDROM/CDRW:読みとりだけでなく書き込みも可、モニター:シャープ液晶 17吋、プリンター:キャノン S6300。新旧2台のパソコンを使って倶楽部ルームからいろいろな情報を発信できるようになります。例えば、例会、懇親会等で編集子が撮った写真はCDROMで倶楽部ルームに保管しますのでご希望の方は倶楽部ルームに来れば自分で好きな写真を選び自宅のパソコンにメールして自宅でアルバム作りが出来ます。使い方の講習会もパソコン同好会と打ち合わせ開く予定ですのでお楽しみに。

同好会だより

絵画同好会

黒田豊夫 (昭37・政)

新倶楽部ルームでますます快調!

絵画同好会がスタートしてはや1年近くになります。梅地先生の指導も絶(舌)好調で、ユーモアたっぷりの指導に、五代師範代の辛口の指摘もあり、会員の腕前もめきめき上達(?)早くも2回目の屋外写生会の話や倶楽部展の話。まだ早い、はやいと言われながら、みんなで和気藹々と楽しくやっている今日この頃です。会員諸兄の個性的で素晴らしい才能を糧に、私も一緒に参加している家内も頑張っています。近況ご報告まで。

皆さん、BRBに掲載の会員の作品にご期待を!

囲碁同好会

林 邦一 (昭41・経)

- ・当会は平成12年10月に発足し、1年半が経ちました。
- ・当初、会員5名でスタートし、現在は15名になりました。

[現在の会員](敬称略)

五代友和(37商)・藤田克雄(37商)・上月福男(39経)・林 邦一(41経)・廣川寿計(41経)・吉岡啓一郎(45法)・安永利啓(45商博)・松本正晴(46法)・金森正一(47政)・槌橋真美(47法)・堂垣内重晴(48経)・芦原直哉(50経)・鈴木 滋(50商)・平田晴彦(55商)・廣川 守(57政)

- ・毎月第1金曜日を「例会」とし、夕方6時頃から対局を楽しんでいます。
 - ・五代氏、安永氏は“高段”の実力者で、初心者には丁寧に指導碁を打っていただいています。
 - ・この4月から運営が一寸変わりました。年会費6000円をいただき、新しい「碁石セット」を購入したり、懇親会(忘年会等)を実施したりしようと考えています。
 - ・囲碁は「頭脳の鍛練」には最適です。“うまい”“へた”は問題ではありません。
- どうぞ、多くの方の入会を期待いたします。

会員の輪

川端さな会員より

宮本恭延 (昭 62・経)

四季の色

《ときは・あさぎ・かきつばた・えどちゃ・ちぐさ》…これらは何の名前かご存知ですか？実は、日本の伝統色の名前です。仕事の上での興味もあり、日ごろこういった表現ができればと思っていますが、これが中々難しいものです。調べてみると、その多くが自然の花や鳥、染料などから取ったものが多いようです。

現代の生活の中では、なじみの少ないものもありますが、それらを重ねて用い、四季を表現した「かさねの色目」など、いにしえの人々の色彩感覚とその表現の豊かさには、改めて驚かされます。

その頃とは比較のしようもない多くの情報があふれていながら、私たちの身近なことへの関心は次第に薄れ、その表現は益々貧弱になっていると思います。

昨今、美しい日本のことばを取り上げた事などが話題になるのも、その反動からでしょうか。

さあ、風光はうららかな季節になりました。手始めに明日からは、花の本でも片手に家の裏の摩耶山でも登ってみようかな……

次は、梶田裕嗣さん (昭 56・法) をお願いします。

今月の絵



(絵画同好会：廣川 守)

古武由紀子会員より

松田明日香 (平 7・文)

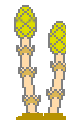
海を渡る雛

気がつくと 20 代最後の節句を迎えていた。雛を飾らなくなって久しいが、この時期が来ると雛のことを思い出す。祖父母が私の初節句に支度してくれた品だ。思い出す雛は ふっくらした顔がすこしあどけなく、やさしい笑みをたたえる表情は世の中の喧騒から超越したかのようだ。今は殆ど家に残っていない。

幼い頃、節句の時期が近づくと、決まって父が押入れの奥から雛段を組み立て、朱の毛氈を敷いた。そして皆で一体づつ紙にくるまれ箱にしまわれている雛や回灯籠、桃と蜜柑の木、お輿、長持等のお道具を飾ってゆく。私は妹と共に着物を着て甘酒と雛菓子で祝福を受ける。行事が終わった後も 雛はしばらく座敷に飾られ、家族を見守っている様だった。そして時が経ち 私も妹も雛祭りを卒業し、いつしか雛たちは押入れの奥で眠るままとなった。

ある時、米国からの客人が数週間我が家に滞在した。母は彼女が帰国するという日 お別れに一体の雛をくるんで持たせた。彼女は驚きながらも 日本の思い出にすると大変感激して大事そうにパッキングして帰国した。以来、海外から客人を迎えるたび雛を贈るのが恒例となり、かくして雛は実家から次々と姿を消していった。だが私たちには雛を飾るのとは別の愉しみができた。世界の様々な国へと旅出立った雛に思いを馳せるのだ。いわば日本古来から伝わる文化の一端を担う雛たちは我が家からの特使。平穏な優しい笑顔で平和を愛する心をより広く伝えてくれたら、と願いを託し。

次号は、山崎えみさん (昭 48・文) に書いていただきます。



新入会員紹介

会員の皆さま、どんどん投稿してください。順次掲載いたします。テーマは自由・字数は500字までで、ファイルで送っていただくと助かります。手書き原稿でも勿論結構です。



今後の行事予定

- 対三田倶楽部ゴルフコンペ 4月9日(火)
- 慶早ゴルフ対抗戦：4月12日(金)
廣野ゴルフ倶楽部
- 幹事会・評議委員会：4月18日(木)
倶楽部ルーム
- 4月度例会：4月24日(水)
倶楽部ルーム・居留地十五番館
- 2002年度総会：5月24日(金)
メリケンパークオリエンタルホテル
- 神戸倶楽部・関西不動産三田会合同例会
6月14日(金)神戸ポートピアホテル

～事務局よりお願い～

4月は会費振込み月です。早目の振込みお願いいたします。

自動振替の会員様は4月30日に会費の引き落としがありますので、口座および残高の確認お願い致します。(糸海恵津子)

編集部よりお願い

月刊BRBをより充実したものにするために、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

編集後記

○地球温暖化のせいなのか目まぐるしく動く世情に合わせたのか、今年の春はいやに早くやってきました。春支度に替える間もなく桜が散りそうです。お花見に行きそびれた方も多いのではないですか？

○BRBをお手伝いさせていただいて早や一年、強力なお助けマンも付いたことだし、新たな気持ちで誌面を盛り上げ、会員の交流の場となればと願っています。時はまさにスプリング、大いに跳ねたいと思います。(ほ)

○山のおちこちに咲いた桜で六甲連山が霞模様化粧して見える候。

JRに乗れば舞子から西宮辺りまで車窓から移り変わる海、街、山を楽しめる「神戸に住めばこそ」を実感できる風景です。車内は、研修内容を語り合うスーツ姿もまだ固い新入社員やオリエンテーション帰りでクラブや授業の選択を声高に言い合う新入学生が「若さ」と「ヤル気」で花いちもんめ。彼らの眼はみんな前を向いて光っています。「あの眼をもらおう！」早咲きの桜がそんな気を起こさせてくれる四月の入りでした。(暁)